

作業療法の可能性を、地域・社会・未来へ広げる学び びわり八の特色ある「展開科目」の紹介

地域が教科書。現場が先生。

「地域共生論」

学校・地域・企業・データを横断し、
これからの作業療法を学ぶ。
学校で、子どもを支える。
地域で、暮らしを支える。
企業で、働く場をつくる。
データで、地域課題を見える化する。
実践家から学ぶ、
地域共生のリアル。



「学校OT」

畑が教室。作業が支援になる。

「農福連携論」

農業・園芸を通して、暮らし、働く力、
社会参加を支える方法を学ぶ。
種をまく。水をやる。収穫する。
選別する。袋に詰める。
その一つひとつの作業が、
身体を動かし、手を使い、人とつながり、
役割と生きがいを生み出す。
農業・園芸を、
作業療法の支援の場に変える。



「バジルを育て
ました」

支援は、つくれる時代へ。

「ICT活用論」

生成AI時代の作業療法士に必要な、
ICT・支援機器・プログラミングを学ぶ。
福祉用具を使いこなす。
支援ツールをつくる。
現場の困りごとを解決する。
データを支援につなげる。
プログラミングは、専門家だけの
ものではない。
対象者の生活を支えるための、
新しい作業療法の道具になる。



「音楽療法」



活動を通して、人を理解する。

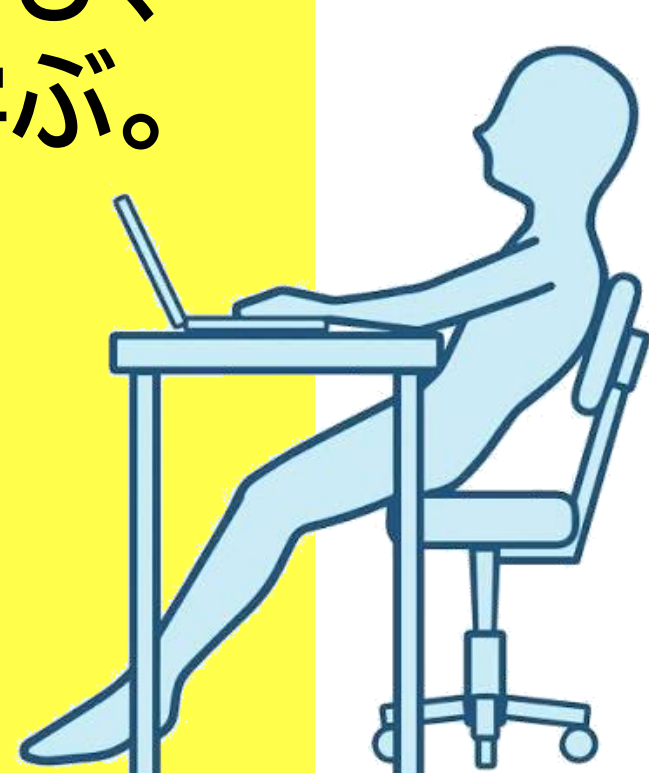
「作業活動関連療法」

作業療法の原点を学ぶ。
音楽や絵画は、
ただ楽しむためだけの活動ではありません。
思いを表す。感情にふれる。その人らしさを知る。
人とのつながりを生み出す。
音楽療法と絵画療法の実践家から、
芸術活動を活用した支援の考え方を学びます。
活動を通して人を理解し、
その人らしい表現と参加を支える力を育てます。

働く人と、働く場を支える。

「障がい者企業就労論」

障がい者就労の現状と課題を学び、
企業で働く人を支える方法を学ぶ。
本人を支える。
企業を支える。
職場環境を整える。
従業員の健康を守る。
医療・福祉の知識を、
企業と職場の支援へ広げる。
働く本人だけでなく、
働く場も支援できる作業療法士へ。



「正しい座り方
ですか？」



「絵画療法」

遊びは、子どもの大切な作業。

「遊びの科学」

保育領域での作業療法を学ぶ。
身体を動かす。感覚を使う。人と関わる。
考える。表現する。
子どもにとって遊びは、
発達を支える大切な活動です。
遊びを通して、
発達支援、集団参加、感覚・運動面への支援、
保育士・保護者との連携、環境調整を学びます。



日本企業におけるプレゼンティーズム対策

プレゼンティーズムとは		主要要因	
健康問題を抱えながら出勤し 生産性が低下している状態 年間経済損失：約3.8兆円		健康関連要因 ・筋骨格系の問題 ・メンタルヘルス不調	職場環境要因 ・長時間労働 ・過重業務負担
文化的・社会的要因 ・「我慢」の文化 ・メンタルヘルスへの偏見			
測定方法		対策戦略	
主な測定ツール ・WHO-HQ (3問) ・SPQ/東大1項目版 (1問) ・WLQ (25問)		組織レベルの対策 ・健康経営の取り組み強化 ・職場環境の改善 ・健康を重視する文化の醸成	個人レベルの対策 ・筋骨格系の健康支援 ・メンタルヘルスサポート ・生活習慣改善プログラム
ステークホルダー別の行動提案			
大企業向け ・健康経営への継続的投資 ・データに基づく効果測定 ・健康文化の醸成 ・成功事例の共有	中小企業向け ・外部資源の積極活用 ・簡便な測定ツールの導入 ・低コスト対策からの着手 ・業界団体との連携	産業保健専門職向け ・最新知見の習得 ・経営層との連携強化 ・エビデンスに基づく提案 ・専門職の役割拡大	

三位一体のアプローチ：個人の健康支援 × 職場環境整備 × 組織文化醸成

「アブセンティーズム、
プレゼンティーズム？」

ない支援は、つくればいい。

「起業家論」

社会課題を見つけ、
新しい支援の形を創り出す力を学ぶ。
地域のニーズを読む。
課題を見つける。
専門性を活かす。
仲間を巻き込む。
行動して、形にする。

起業は、会社をつくることではありません。
自分の専門性を社会の中で活かし、
必要とされる支援を生み出すための考え方を学びます。

「子どもロコモ」のチェック



学校法人 藍野大学

びわこリハビリテーション
専門職大学